

# 新河岸川 広域景観 プロジェクト便

## vol. 8

2010年1月15日発行



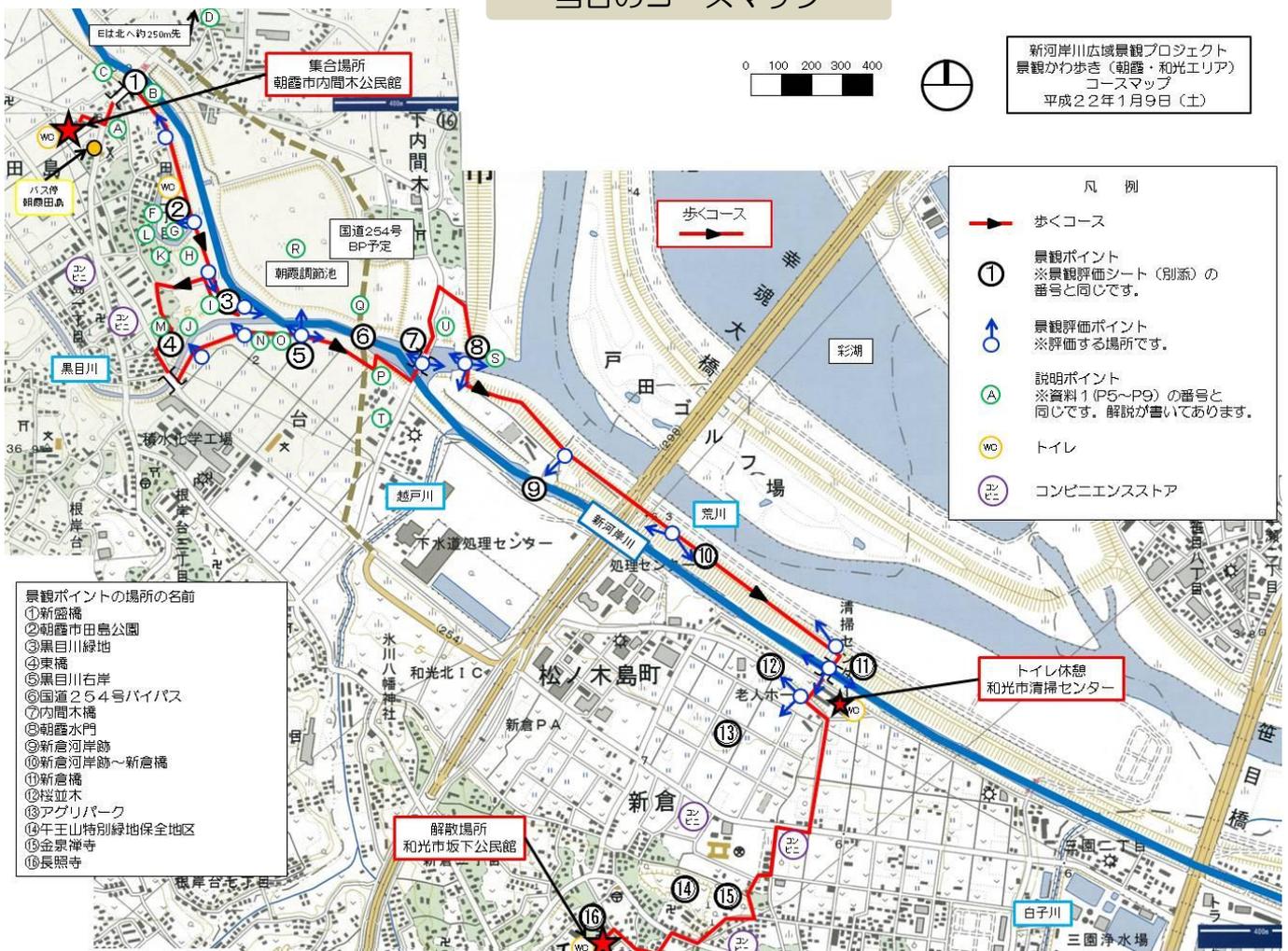
彩の国 埼玉県

平成22年1月9日（土）9:20~13:30に、新河岸川とその周辺を中心に朝霞市内間木公民館から和光市坂下公民館の区間で「新河岸川広域景観プロジェクト景観かわ歩き（朝霞・和光エリア）」を開催しました。（参加者35名）

今回のかわ歩きのコースは、内間木公民館をスタートして、新盛橋→黒目川合流点→東橋→内間木橋→朝霞水門→新倉河岸付近→新倉橋を経て、最後に坂下公民館で意見交換を行い、解散しました。

当日は、風もほとんど無い冬晴れの中、3班に分かれて約7kmのコースを歩きました。朝霞市、和光市で活動されている団体の方にコースを詳しく御説明をしていただき、新河岸川の景観についてより理解を深めることができました。

### 当日のコースマップ



## 新河岸川広域景観プロジェクトとは・・・

舟運で栄えた歴史ある新河岸川をモデルとしたプロジェクトにより多くの県民のみなさまが《景観》について関心を持ち、県民やNPOのみなさま、企業等と市、県が一体となり行動することで、埼玉の美しい景観を先導することを目的とします。

○景観かわ歩きでは、美しい景観づくりに向けて、具体的な取組のアイデアを考え、どう実現させるか考えていきます。また新河岸川の地域間の交流を図りながら取り組んでいきます。

○新河岸川の美しい景観をより多くの人に知っていただくためにPRを行っていきます。

## 景観かわ歩き

景観かわ歩きでは、昨年度作成した、新河岸川の「**景観掘り起こしマップ**」に記載されている「**良い景観**」「**残念な景観**」「**景観資源**」の場所を確認しながら歩いています。

新河岸川の特徴として、朝霞エリアは、市街地から離れて、左岸側は資材置き場などが多い地域です。田島公園付近では、旧河川を見ることができ、かつての面影を感じることができます。また、和光エリアは、川の区間が短く、新しく出来た河川で荒川と平行して流れています。

今回のコースは市街地から遠いこともあり、地元市の方を含め**初めて**歩く人が多くいました。**黒目川合流点付近、東橋付近、朝霞水門**などの景観ポイントは、眺めも素晴らしく参加者の皆様には大変好評でした。今回は季節が冬で雑草がほとんどなく歩きやすい状況でしたが、夏の時期には、雑草が生い茂りまた印象が変わるといってお話もありました。

### <かわ歩きの実施手順>



【STEP1】コースを歩く。五感を使って感じる。  
「良い景観」「残念な景観」「景観資源」を確認。



【STEP2】感じたことを書き留める。  
「景観評価シート」に評価とコメントを記入。



【STEP3】感じたことを人に伝える。  
各班で意見・感想を話しあう。



【STEP4】良い景観について、みんなで共感する。  
最後に班ごとに発表。



### 黒目川合流点の緑地 ～住民管理による視点場～

新河岸川と黒目川との合流点では、平成21年に県の川のシンボルツリー整備事業により、**緑地**として整備されました。整備前は人が立ち入ることができない荒れた場所でした。

朝霞市の**わくわく新河岸川みどりの会**では、この場所の雑草取りや葛の根掘りなどの維持管理を行い、今では市民に愛される見事な**憩いのスペース**ができました。

この場所には、朝霞市のシンボルの木であるケヤキを中心には安行桜、旧植栽のヒメリンゴ、梅、柿などを周辺に配置しています。また、良い景観が見られる位置にはベンチも設置されています。新河岸川を散歩する人、自転車に乗ってくる人が増え、川沿い一面に開けた空間は、朝霞水門、朝霞調節池などを見ることができます。景観かわ歩き当日は、わくわく新河岸川みどりの会の皆様に緑地の概要や管理の話などを詳しく説明していただきました。人の手入れがされている場所は、良い**景観の視点場**と言えます。



### 東橋付近の水辺再生事業予定地 ～景観資源の活用～

平成21年に**黒目川東橋下流地域**が県の「水辺再生100プラン」の事業地に選定され、現在具体的検討が進められています。

この場所は新河岸川と黒目川との合流点のシンボルツリー事業地に隣接し、**湧水**が自噴し景観が良いにも関わらず、今まで殆ど利用されていない場所でした。この事業が完成すると、公道から黒目川、新河岸川が遊歩道で繋がりと水辺周辺に親しむ人も増えると期待されます。

これまで活用されていなかった**景観資源**を掘り起こして活用することが大切です。



### 朝霞水門 ～魅力的な視点場～

朝霞水門は、新河岸川流域の浸水被害の軽減を目的に平成7年に完成し、日本最大級のゲートを備えています。朝霞水門は景観資源としても良く、また、周囲から開けた場所に位置しているため、新河岸川を見る**景観の視点場**としても良い場所となっています。この日は天気にも恵まれて富士山など遠くの山々を見ることができました。



### 新倉河岸跡 ～舟運の面影の残る景観資源～

新倉河岸は、改修前の新河岸川と荒川との合流点付近に位置して、昔は船宿、舟問屋などがありました。新河岸川の改修後多くの家が移転し、現在は**水神祠**のみが残っています。当日は、対岸から見て確認しただけですが、かつての舟運の面影を残す場所となっています。



## 荒川の土手 ～奥行感が感じられる眺め～

新倉河岸付近から下流では、新河岸川と荒川がほぼ平行に流れています。新河岸川は改修後新しくできた区間になっています。荒川の土手からは、新河岸川と荒川を見ることができます。また、幸魂大橋や朝霞水門などの土木構造物や和光市の斜面地などの自然景観を楽しむことができました。



## ★意見交換では、各班の代表の方からたくさん意見がだされました。

- ・新河岸川の良い所をもっと周りの人にPRするためのイベントを主体は県、市、活動団体にこだわらないで開催したい。小さい活動から大きくしていく。
- ・新河岸川を知らない人がイメージ（舟運、自然、歴史等）できるソフト施策を。
- ・川の土手のゴミ、犬のフン等の問題があるので、マナーを守る啓発を。
- ・コースで休憩場所がないので、ベンチやトイレがある良い。



## 平成21年度の活動計画

実施時期	事業名	事業の概要
H21.6.20	コアメンバー会議	・H21 プロジェクト活動計画（案）の検討
H21.7月 ～H22.1月 まで	現地調査等	・景観かわ歩き(3回) 第1回（川越・ふじみ野）旭橋～養老橋周辺(9月5日) 第2回（富士・見志木）いろは橋周辺(11月1日) 第3回（朝霞・和光）新盛橋～旧新倉河岸周辺(1月9日) ・勉強会（現地調査の結果を踏まえ、必要に応じ、景観法などの活用について考える）
H22.2	フォーラム準備会議	・今年度の取組のまとめ、フォーラムの開催準備
H22.3	景観フォーラム	・今年度の取組の発表、景観に関する講演など
通年	景観サイクリングマップの作成	・景観サイクリングマップの話し合い(12月18日) ・和光市から川越市までの新河岸川のお勧めの景観を回るサイクリングマップの作成

※景観サイクリングマップは、新河岸川と景観プロジェクト（景観の再認識、課題整理等）のPRを目的に作成を進めています。参加市民団体の皆さまのご協力で、現地調査をもとに作成したマップのたたき台について、12月18日に話し合いを行いました。ご協力ありがとうございました。



ご意見お待ち  
しています。

埼玉県 都市整備部 田園都市づくり課  
景観・屋外広告物担当

電話 048-830-5367（直通）

FAX 048-830-4879

Email [a5540-01@pref.saitama.lg.jp](mailto:a5540-01@pref.saitama.lg.jp)

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A10/BX00/keikanHP/shingashitop.html>